

伝統文化教育実践研究 「湯元の田植踊」の伝承活動を通して

平成 24・25 年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業～中間報告～

仙台市立湯元小学校
校長 鈴木 修 (全校児童 90 名)
仙台市太白区秋保町湯向 29-3
TEL022-398-2842
FAX022-398-2698



この事業は、グローバルに活動、貢献する人材の育成として、児童生徒に自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けさせるため、伝統的な言語文化、歌唱、郷土食、産業など様々な伝統的な事項にかかる指導を学校全体として各教科等の連携を図りながら有機的に行うことにより、各教科等での指導効果を高めることを目的とした実践研究である。

教育基本法 第二条五 教育の目標

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。



仙台市立湯元小学校は国立教育政策研究所より本事業の委嘱を受け、「伝統文化教育に関する指導とその評価方法についての実践研究～湯元の田植踊の伝承活動を通して～」を研究主題に掲げ、取り組んでいる。「秋保の田植踊」がユネスコ無形文化遺産に登録された平成 21 年から、生活科・総合的な学習の時間に位置付けて取り組んできたものである。



学校教育目標

心豊かで主体的に活動する子供の育成

思いやりのある子供

進んで学ぶ子供

たくましい子供

1 田植踊を通して育てたい資質・能力

- ・地域の良さを理解し、身の回りの環境との関わりを考えて生活する。
- ・自らの生活の在り方を見直し、実践する。
- ・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える。

2 研究内容及び研究方法

4月～5月

- ・生活科及び総合的な学習の時間に位置付けた年間指導計画の作成と見直し
- ・児童の実態把握
- ・地域に伝わる伝統文化の理解

6月～10月

- ・田植踊保存会の方々からの指導
- ・伝承活動における上学年から下学年への意識的な教え合い
- ・自己評価による児童の変容の検証
- ・多様な評価で学習状況の把握

11月～3月

- ・学芸会や伝統芸能文化祭での発表
- ・ユネスコ無形文化遺産に登録された秋保の田植踊の調査研究とまとめ
- ・1年間の研究成果のリーフレット等による広報



総合的な学習の時間のねらい

とびだせ 湯元っ子！

自然・社会、そして人との関わりを通して、地域への理解を深め主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。

* 1. 2年生は生活科の中で学ぶ。

成果 (●) と課題 (◆)

- 生活科や総合的な学習の時間のねらいの達成とともに、児童が田植踊への理解を深め、自分が住む地域への愛着を持つことができた。
- ◆単なる踊りを覚える活動ではなく、先人の思いを感じ、伝統文化を尊重するなど、「心」の指導も充実できるような年間計画を見直すとともに、道徳等との関連も検討していく。
- ◆評価の観点を適切に定めて、どのような力が身に付いたのかを把握するために評価規準を見直していく。

「杜の都の学校教育」推進の基盤

地域とともに歩む学校

多様な知識や経験を持つ地域の大人と触れ合う機会を得ることによって、より幅広い生きた学習活動が可能となる。

1 地域、保存会、保護者との連携

- ①体験的な学習の充実を図る
 - 実感の伴った伝統文化の理解を深めさせる。
 - 外部講師（湯元田植踊保存会）の協力により、本物に触れることで学習意欲を喚起させる。
- ②実生活での関わりを考えられるようにする
 - 生活とのかかわりの中で地域を理解し、自己の生き方を考えさせる。

2 取組の感想（児童、保存会、保護者から）

- 早乙女の踊りが楽しかったです。またやりたいです。（1年女子）
- 保存会の先生が教えてくださり上手になりました。また教えてもらいたいです。（2年男子）
- 湯元小にユネスコ無形文化遺産に登録されるような伝統芸能があることを誇りに思います。これからも「湯元の田植踊」を大切にしていきたいと思っています。（6年女子）
- 自分も小学生の頃、田植踊をしたことがあるので懐かしい。湯元のすばらしい伝統文化なので続けてほしい。（保護者）
- 田植え踊りを何とか守っていきたくて考えていますので、学校が田植踊をしてくれて大変感謝しています。（保存会講師）

